

10. MRCP における食事摂取後の経時的胆嚢体積変化について

松山赤十字病院 ○露口 智絵、水口 司、小笠原 俊祐、二宮 博志
今井 敏明、栗田 幸、松村 茂、福岡 知宏

【目的】

MRCP 検査は本来食事制限をして行う検査であるが、急性胆嚢炎等の緊急検査や失念してしまったり理解不十分のため食事をしてしまうなど、適切な食事制限が行われていない場合がある。こうした場合、当院では食後 3~4 時間あけて検査を行っていたが、胆嚢が十分に拡張していない症例を何度か経験した。そこで、食後どの程度の時間で胆嚢が再拡張し診断可能になるか、また食べ物によっても違いが出るのか、胆嚢の経時的な体積変化を計測することで評価を行った。

【方法】

胆道疾患のない健常なボランティア 5 名に対し、検査 protocol 通り前日より絶食とし摂食前に撮像し、その後[A：洋]たんぱく質、脂質を多く含む食事（卵サンドイッチと牛乳 200ml）を摂り経時的な変化を観察する事とした。また実施日を変え、[B：和]炭水化物を多く含む食事（おにぎり 2 個とお茶 200ml）でも同様の撮像を行った。この 2 種類の食事に対し、摂食前、摂食後 30 分から 1.5 時間、2.5 時間、3.5 時間、4.5 時間と 60 分毎に 3D/balanced TFE（TR:4.5ms、TE:2.2ms）を撮像し、3D ワークステーション（Ziostation2）にて胆嚢体積を測定した。

【結果】

- 1) 絶食時の胆嚢体積を 100%とし、[A：洋]では食後 30 分で平均 52.9%、1.5 時間で 16.6%と最も収縮し、その後 2.5 時間で 26.2%、3.5 時間で 56.1%、4.5 時間では 78.2%と徐々に再拡張した。
- 2) [B：和]では食後 30 分で平均 68.9%まで収縮した後、1.5 時間で 77.9%、2.5 時間で 72.6%、3.5 時間で 75.8%、4.5 時間で 80.1%まで再拡張した。

【考察】

- 1) [A：洋]では食後 3~4 時間程度で胆嚢が 50~60%まで再拡張し撮像可能になるが、胆嚢管癌との鑑別が必要な疾患では食後 6 時間程度あけることが望ましい。また、食後 1~2 時間では最も胆嚢が収縮するため撮像は避けるべきである。
- 2) [B：和]では全体を通して 50%以下まで収縮することが無かったため、胆嚢管癌との鑑別が必要な疾患では食後 2~3 時間要するが、それ以外の疾患では食事の時間にかかわらず検査可能と言える。